

鶴岡市総合戦略策定会議（会議概要）

- 日 時 平成30年8月2日(木) 午後1時から
- 会 場 鶴岡市第三学区コミュニティセンター 大ホール
- 次 第
 - 1 開会
 - 2 委嘱状交付
 - 3 市長あいさつ
 - 4 委員の紹介
 - 5 協議
 - (1) 会長の選出について（林田光祐山形大学農学部長を会長に選出）
 - (2) 鶴岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証
 - (3) その他
 - 6 閉会

以下、委員発言の概要

■ 1 地域にしごとを増やし、安心して働けるようにする

- ・慶応先端研は、全国に誇れる鶴岡の資源の最たるもので、他の地域には真似できない地方創生の取組みができると思うので、連携は重要である。
- ・人口を増やすためには働く場所、雇用の追加が重要で、企業はそこにしかないものがある地域に進出すると言っていることから、食文化や学術機関に恵まれた環境を活かす視点が大切である。
- ・地域振興を考えた場合、地場の製造業を強くしないと他地域から部材を調達することになり出荷額が衰えてしまうので、地場企業の技術力が高くなるような支援の仕組みも必要ではないか。
- ・だだちゃ豆や在来野菜などの成分分析などが、地元でできるのかどうかを戦略から戦術レベルのところで見直していただきたい。
- ・ユネスコ食文化創造都市の認定を受けてはいるものの方向性や運動的なことが足りないのではないか。
- ・世界の他の創造都市が、どのように認定を活用しているか聞きたい。
- ・ユネスコ食文化創造都市認定を誇りに思うようなまちづくりが大事である。
- ・水族館と温泉街をタイアップしたまちづくり、観光誘致を検討していただきたい。
- ・日本遺産認定について、普及効果の高いSNSを活用し周知を図っていただきたい。
- ・G I 認証制度において日本は後進国である。山大農学部や鶴岡高専、慶應先端研など学術機関を活用し、ぜひG I 認証制度を前向きに考えていただきたい。

■ 2 地域への新しいひとの流れをつくる

- ・全国的に、産業化を見据えてチャレンジしたい新規就農者が増えていることから、移住定住につながるようなトータルの支援策を加えていただきたい。
- ・地元企業を働く場所として見る視点が親にも欠けている。

- 地元の企業を若い人たちに紹介する機会が少ないのではないかと。高校や大学でも実施しているが、これらの事業が広がり、市民に浸透していくことが大事である。
- 中学生などにも地元企業を紹介する機会を設けるようにしたらどうか。
- 進学で県外に転出する高校生、特に女性を戻す具体的な施策に次回は期待したい。
- 求職者が減っており、いかに鶴岡に来てもらうかを重点にしているので、市と協力していきたい。
- 全国の地方創生の取組みにおいて、産学官金がしっかり連携していると成果を上げているようである。鶴岡市も山大農学部や鶴岡高専、慶應先端研などの学術機関を活用し施策を展開していただきたい。

■ 3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

- 学童保育について、指導員が不足しており安心して預けられないといった声がある。子育てしやすい鶴岡市でありたいといった場合、もう少し深いところまで検討して知らせるべきではないか。

■ 4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守る

- 特色ある地区が、誇りを持つために挑戦するようなことを支援できるような仕組みを作ると周辺地域も強くなっていくのではないかと。

戦略の推進

- 実施している事業はよいと思うので、もっと深く掘り下げることも重要である。例えば若い世代が地域外の友人に鶴岡市を紹介するプロジェクトなど、市民をもっと巻き込むことが大事だと思う。
- 検証をする場合「◎」をもっと大きなものにしていく努力をした方がいい。
- 地元愛着度が高いところほど観光誘客数も大きい傾向があるので、積極的に地元を好きになる仕組みを作っていくべきである。
- 検索サイトで検索した場合に、鶴岡市の情報がトップに表示されるような取組に力を入れていただきたい。専門業者の活用も考えてみてはどうか。